

「YESマン」にならず、自分の「考え」をもつて――

先日、六年生が三校合同修学旅行に向けての「事前学習会」を行いました。その時、異なる学校が集まって班の話し合いをしました。自己紹介をした後、「めめて」を考える時です。お互いの意見を出し合い、班の意見がまとまらないかなと思っただけで、新しい視点で考えを出す人。それに対して根拠をもって反対意見を出す人など。とても活発な意見交換ができ、皆が満足した話し合いとなりました。

一方、学級での授業ではどうかという点、一人の子の発表に対して、「いいです。」「いい考えです。」「面白い返事が多い。」「本当「そうなのかなあ？」と指導者が問わないといけないことも度々あります。

先週の全校朝会では、「矛盾」という言葉の話もしました。人が言っている話。「そうだね。」「と聞いているだけでは、つじつまの合わない話があっても見逃してしまいますことがある。」「おかしいな。」「と、時には批判的に話を聞くことも大事であるということについて話をしました。それは、「反抗」「したり、」「反発」「したりするだけではなく、様々な情報を基に、「根拠をもって自分の考えを伝える」「ことにはあります。

「いいね」「いいね」など、多くの情報が飛び交う中、何が正しくて何が間違っているかを判断すること・見極めることも、自分の考えを補完する大事な力の一つになると思います。

日常生活の中、子供達が、他の人とかかわりの中で、どのように判断しているかのような考えをもっているかを大人の視点で見守っていただければ幸いです。

学校長 田丸 米